令和５年３月８日

保護者様

船橋市立行田東小学校
校長　五十嵐　信昭

令和５年度　全国学力・学習状況調査の結果分析について

令和５年度全国学力･学習状況調査における本校の結果分析についてお知らせいたします。職員一同で情報を共有し、本校の教育活動にいかしていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

なお調査の結果は児童の学力や教育活動の全てを計るものではありません。調査の結果は、児童の学力や学校における教育活動の一面であることを申し添えます。

１．教科に関する調査より

（１）国語

〇どの領域・観点に関しても、力がついてきている。特に漢字を文の中で正しく使う力が高かった。

●「話すこと・聞くこと」に関わる問題を苦手にしている。記述式の問題でも、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題」の正答率が特に低かった。

●国語は無解答率が高かった。

（２）国語の補足説明

・「話すこと・聞くこと」に関わる問題を苦手にしているのは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、過去数年間話し合い・伝え合い活動が十分に行えていなかったことが大きな理由として考えられる。そのため、今後は積極的にこれらの活動を取り入れていく必要がある。

・国語の無解答率が高かったのは、問題を要約する力が不足していたこととともに、調査後のアンケートから、時間配分がうまくできなかったことも大きな理由として考えられる。そのため、各教科で「大切なこと」「聞かれていること」などの視点を持って、文章問題を要約する経験を重ね、課題を素早く正確に把握する総合的な力を身に付けていく必要がある。

（３）算数

〇どの領域・観点に関しても、しっかりと学力が身に付いている。記述式の問題でも、「どうしてそうなるのか」自分の言葉でしっかりと説明できるようになってきている。

●全体的によく理解しているものの、「図形の意味や性質について答える問題」の正答率が、他に比べてやや低かった。

（４）算数の補足説明

・他の領域が得意でも、図形だけ苦手という児童もいるため、新しい図形や面積・体積の求め方が出てくるたびに、既習事項の振り返りを行い、問題を繰り返し解いていく必要がある。

２．生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査より

（１）傾向の分析

〇学校以外でもよく学習している傾向がある。

〇読書や新聞を読むことが好きで、習慣化している児童が多い傾向がある。

〇簡単にあきらめずに、最後まで粘り強く取り組もうとする傾向がある。

●自己肯定感がやや低く、実際に持つ学力と自己評価のバランスがとれていない傾向がある。

●様々な人との関わりにおいて、あまりできていないと感じていたり、意欲がやや低くなったりする傾向がある。

（２）傾向の分析の補足説明

・実際に持つ学力と自己評価のバランスがとれていない傾向があるのは、日頃取り組んでいる課題がやや難しいことが原因ではないかと考えられる。ただし、少し難しく感じるような適用問題の充実によって学力が身に付いてきていることも予想できるので、児童が見通しを持って学習を進められるよう

に、既習事項を大切にして学習に取り組めるようする。また、結果だけではなく、児童一人一人の頑張りを積極的に認めることで、児童自身が学力や取組に自信を持てるよう、職員一同が一層意識して指導していく必要がある。
・様々な人との関わりにおけるやや低い傾向は、新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、昨年度まで地域行事が中止・縮小になっていたことや、各教科での話し合い・伝え合い活動を控えていたことが大きな理由として考えられる。今年度から地域行事が復活していることや、各教科で話し合い・伝え合い活動、外部講師の活用を積極的に行っていることから、今後は大きな改善が予想できる。また、この関わり合いを通して、認め合う機会や自己を見つめる機会が増え、先述の課題の一つである自己肯定感が増すことも考えらえる。
・上記２点は、地域や家庭との連携も重要なため、今後も協力し合い、関係を深めていく必要がある。

３．改善のための主な方策について（継続事項も含む）

学力向上のために

・低学年では朝学習の時間を設定し、読み・書き・計算の基礎基本の定着を図る。
・全学年で自主学習ノートを実施する。その際、学校で統一した学習の進め方の冊子を配付したり、主体的な学習ができている児童のノートを学年掲示板で紹介したりすることで、よりよい取組につなげる。
・校内研究において、本校の傾向や課題に即した指導法等について、講師を招聘し、協力を得ながら指導力の向上を図っていく。問題把握の際は、高学年を中心に、少しずつ要約する活動を取り入れていく。
・算数では、適用問題の時間をしっかりと確保することにより、解く問題数を多くし、学習の定着を図るとともに、応用力も身に付けられるようにする。
・各教科で話し合い・伝え合い活動を重視し、学校全体で共通して取り組むことを明確にする。その際端末を利用して、積極的に「ロイロノート」を活用する。
・ｅ ライブラリを中心に、端末を利用した課題を出し、意欲の向上や学習内容の定着、家庭学習の充実を図る。（※この方策は「家庭との連携」にも該当する）
・県が作成している「ちばっ子チャレンジ 100」を活用し、授業時間だけでは定着に至らなかった内容を、朝学習の時間や家庭学習の時間に行う。

児童の関わり合いを大切にする心や自己肯定感を高めるために

・各教科で話し合い・伝え合い活動を積極的に取り入れていく。
・各行事で、学校生活は家庭や地域の方の協力で成り立っていることを実感できるように、キャリアパスポートを有効に活用する。
・縦割り清掃や交流学級での活動を通して異学年間交流を積極的に行う。
・「あったかハートプロジェクト」の一環である挨拶運動では、「だれとでも・なんどでも」を合い言葉に、一部の児童が主となって活動するのではなく、交代で全学年が担当するようにする。
・委員会活動や係活動では、一人一人に仕事を割り当てたり、カードを活用した評価をしたりすることで、その仕事の意義や責任を感じられるようにする。
・道徳で「Ｂ親切、思いやり」「Ｃ勤労、公共の精神」の教材を扱う際は、学級や学校内の身近な例を取り上げることで、児童の豊かな心を育む。
・担任だけではなく、教職員全員が児童と積極的に関わっていくようにする。その際は、挨拶を大切にしつつ、結果だけでなく頑張りを積極的に認めていく意識を高く持つ。

家庭や地域との連携を深めるために

・学年学級便りで学習状況を伝える。その中で、学習用具の準備や予習、復習の大切さ、学習への取り組み方を保護者に伝えるようにする。
・本校ＨＰを通して、家庭への連絡の充実化を図る。また、学校生活の様子も伝えていく。
・家庭学習の充実を図るために、県教育委員会ＨＰに掲載している「家庭学習のすすめ」サイトを参考にし、各学年が年度はじめの懇談会で、家庭学習の重要性や進め方について取り上げる。
・授業参観の実施や行事の公開を積極的に行い、家庭や地域の方に学校活動に対する理解を深めてもらう。
・ゲストティーチャーとして、地域人材の積極的な活用を行う。
・ICT 機器を活用して、あらゆる機会や場所で問題に取り組むことができる環境を整える。

※「ちばっ子チャレンジ 100」「学びの突破口ガイド」「家庭学習のすすめ」について
→千葉県のホームページ内（https://www.pref.chiba.lg.jp）でキーワード検索をすると簡単に閲覧することができます。